

田中平八 教授

I 著書・学術論文等	* 著書 『錯視の科学ハンドブック』(東京大学出版会) 2005年2月21日 (共編著)
------------	---

小松田儀貞 助教授

I 著書・学術論文等	* 学術論文 1) 小松田儀貞 「「普遍的なもの」の帝国主義」『秋田県立大学総合科学研究彙報』(秋田県立大学総合科学教育研究センター) 2005年3月25日、第6号、29~36ページ (単著)
III 社会活動および受賞歴等	1) 秋田県男女共同参画審議会委員 (2004年7月~) 2) あきた女性チャレンジ支援連絡協議会委員 (2005年5月~)
V その他の活動(助成研究、報告書等)	1) 「経済と文化 —— 「豊かさ」のゆくえ」『秋田魁新報』2005年9月18日

長澤吉則 助教授

I 著書・学術論文等	* 著書 1) 『健康・スポーツ科学のためのSPSSによる多変量解析入門』(杏林書院) 2004年7月5日 (共編著) 2) 『健康・スポーツ科学講義』(杏林書院) 2005年10月20日 (共著) * 学位論文 1) 長澤吉則 「中・高齢者における筋力発揮調整能に関する研究—要求値に対する最大下の握力発揮追従能力からの検討—」金沢大学大学院自然科学研究科生命科学専攻博士学位論文(博士(学術))自博甲第685号、2004年9月30日 * 学術論文 1) Masakatsu Nakada, Shinichi Demura, Shunsuke Yamaji, Masaki Minami, Tamotsu Kitabayashi, Yoshinori Nagasawa: Relationships between force curves and muscle oxygenation kinetics during repeated handgrip. Journal of Physiological Anthropology and Applied Human Science 23:191-196, 2004. 2) Yoshinori Nagasawa, Shinichi Demura: Relationships among coordinated exertion of force and performance on pegboard and pursuit rotor tests using upper limbs and fingers. Perceptual and Motor Skills 99:1053-1060, 2004.
------------	---

	<p>3) Masakatsu Nakada, Shinichi Demura, Shunsuke Yamaji, <u>Yoshinori Nagasawa</u>: Examination of the reproducibility of grip force and muscle oxygenation kinetics on maximal repeated rhythmic grip exertion. Journal of Physiological Anthropology and Applied Human Science 24:1-6, 2005.</p> <p>4) <u>Yoshinori Nagasawa</u>, Shinichi Demura: Controlled exertion of force by developmentally delayed young men and women. Perceptual and Motor Skills 101:487-497, 2005.</p> <p>5) Takanori Noguchi, Shinichi Demura, <u>Yoshinori Nagasawa</u>, Masanobu Uchiyama: The practice effect and its difference of the pursuit rotor test with the dominant and non-dominant hands. Journal of Physiological Anthropology and Applied Human Science 24:in press, 2005.</p> <p>6) Yukio Ikemoto, Shinichi Demura, Shunsuke Yamaji, Masakatsu Nakada, Tamotsu Kitabayashi, <u>Yoshinori Nagasawa</u>: The characteristics of simple muscle power by gripping: gender differences and reliability of parameters using various loads. The Journal of Sports Medicine and Physical Fitness, in press, 2005.</p>
<p>II 学会報告 等</p>	<p>* 学会報告</p> <p>1) <u>長澤吉則</u>、出村慎一、松澤甚三郎、吉村喜信「指標追従による筋力発揮調整能と瞬発握力の両変数間の対応関係」日本教育医学大会第52回大会（於：兵庫大学）2004年8月</p> <p>2) 菅野紀昭、出村慎一、<u>長澤吉則</u>、小林秀紹、山次俊介、南 雅樹「運動習慣の違いが高専男子学生の体格および体力に及ぼす影響－3年間の文部科学省の新体力テストによる縦断的資料を用いて」日本教育医学大会第52回大会（於：兵庫大学）2004年8月</p> <p>3) 中田征克、出村慎一、<u>長澤吉則</u>、山次俊介、吉村喜信、野田政弘「最大反復把握作業における力一時間評価変数と筋酸素動態の関係の検討」日本教育医学大会第52回大会（於：兵庫大学）2004年8月</p> <p>4) <u>長澤吉則</u>、出村慎一、菅野紀昭、乙坂晃寿「筋力発揮調整能、ペグボード、追従動作テストの左右差および性差」日本体力医学会第59回大会（於：大宮ソニックシティ）2004年9月</p> <p>5) 内山応信、出村慎一、<u>長澤吉則</u>、山田孝禎「カフによる大腿部阻血が姿勢制御に及ぼす影響」日本体力医学会第59回大会（於：大宮ソニックシティ）2004年9月</p> <p>6) <u>長澤吉則</u>、出村慎一、中田征克、北林 保「棒グラフ表示法による筋力発揮調整能テストの年齢段階別標準値の作成」日本体育学会第55回大会（於：信州大学工学部、長野市若里市民文化ホール、長野県社会福祉総合センター）2004年9月</p> <p>7) 山次俊介、出村慎一、<u>長澤吉則</u>、吉村喜信「異なる近赤外分光法測定装置による持続的な等尺性把握作業中の筋酸素動態の比較」日本体育学会第55回大会（於：信州大学工学部、長野市若里市民文化ホール、長野県社会福祉総合センター）2004年9月</p> <p>8) 山田孝禎、出村慎一、南 雅樹、<u>長澤吉則</u>、内山応信、野口雄慶「指示条件の有無が</p>

立ち上がり動作の各局面におけるパフォーマンスの再現性に及ぼす影響」日本体育学会第55回大会（於：信州大学工学部、長野市若里市民文化ホール、長野県社会福祉総合センター）2004年9月

- 9) 長澤吉則、出村慎一、小林秀紹、中田征克、内山応信、山田孝禎「疑似ランダム波形を用いた筋力発揮調整能評価法の検討」発育発達・測定評価合同学会 in Komaba, 2005大会（於：東京大学駒場キャンパス数理科学棟大講義室）2005年3月
- 10) 中田征克、出村慎一、小林秀紹、長澤吉則、内山応信、山田孝禎「持続的および断続的最大の把握作業における筋力発揮値と筋酸素動態の再現性の検討」発育発達・測定評価合同学会 in Komaba, 2005大会（於：東京大学駒場キャンパス数理科学棟大講義室）2005年3月
- 11) 内山応信、出村慎一、小林秀紹、長澤吉則、中田征克、山田孝禎「片手荷物保持が下腿筋の活動状態および足圧中心動揺に及ぼす影響」発育発達・測定評価合同学会 in Komaba, 2005大会（於：東京大学駒場キャンパス数理科学棟大講義室）2005年3月
- 12) Yoshinori Nagasawa, Shinichi Demura, Masanobu Uchiyama, Shunsuke Yamaji, Yoshinobu Yoshimura「Practice effect and its difference of the pursuit rotor test by the dominant and non-dominant hands」日・韓健康教育シンポジウム第11回大会兼日本教育医学大会第53回大会（於：韓国春川市教育大学校）2005年8月
- 13) Yoshinobu Yoshimura, Shinichi Demura, Yoshinori Nagasawa, Takayoshi Yamada, Masaki Minami, Tamotsu Kitabayashi「Has the developmental tendency of muscular-strength function for Japanese youth males differed in 10 years?」日・韓健康教育シンポジウム第11回大会兼日本教育医学大会第53回大会（於：韓国春川市教育大学校）2005年8月
- 14) Masakatsu Nakada, Shinichi Demura, Masanobu Uchiyama, Takanori Noguchi, Shunsuke Yamaji, Yoshinori Nagasawa「Relationships between the force-time parameters and muscle oxygenation kinetics during a maximal repeated rhythmic grip on different gripping intervals, and a maximal sustained isometric grip」日・韓健康教育シンポジウム第11回大会兼日本教育医学大会第53回大会（於：韓国春川市教育大学校）2005年8月
- 15) Shunsuke Yamaji, Shinichi Demura, Yoshinori Nagasawa, Masakatsu Nakada, Noriaki Sugano「Comparison of oxygenation kinetics measured by different placements of the NIRS probe during sustained isometric gripping」日・韓健康教育シンポジウム第11回大会兼日本教育医学大会第53回大会（於：韓国春川市教育大学校）2005年8月
- 16) 長澤吉則、出村慎一、南雅樹、北林 保、内山応信「疑似ランダム波形と正弦波形を用いた筋力発揮調整能測定値の年代差および個人差」日本体力医学会第60回大会（於：川崎医療福祉大学）2005年9月
- 17) 北林 保、出村慎一、長澤吉則、小林秀紹、内山応信、多田信彦「瞬発的および調整的筋力発揮における利手と非利手の優位性」日本体力医学会第60回大会（於：川崎医

	<p>療福祉大学) 2005年 9 月</p> <p>18) 中田征克、出村慎一、<u>長澤吉則</u>、山次俊介、山田孝禎、宮口和義「漸増負荷法を用いた持続性握力発揮作業における発揮値および主観的筋疲労感覚の再現性」日本体力医学会第60回大会 (於: 川崎医療福祉大学) 2005年 9 月</p> <p>19) <u>長澤吉則</u>、出村慎一、小林秀紹、北林保、内山応信、菅野紀昭「波形表示法による筋力発揮調整能の加齢変化および標準値の作成」日本体育学会第56回大会 (於: 筑波大学大学会館、体育・芸術専門学群棟、総合体育館) 2005年11月</p> <p>20) 中田征克、出村慎一、山次俊介、<u>長澤吉則</u>「漸増負荷法を用いた持続性握力発揮作業における発揮値と主観的筋疲労感覚の関係」日本体育学会第56回大会 (於: 筑波大学大学会館、体育・芸術専門学群棟、総合体育館) 2005年11月</p> <p>21) 内山応信、出村慎一、<u>長澤吉則</u>、山田孝禎「障害物設置が Timed Up &amp; Go テストに及ぼす影響」日本体育学会第56回大会 (於: 筑波大学大学会館、体育・芸術専門学群棟、総合体育館) 2005年11月</p>
<p>III 社会活動 および受 賞歴等</p>	<p>* 各種公的団体、審議会への参加・所属等</p> <p>1) 日本教育医学会理事 (1994年 8 月～)</p> <p>2) 日本体力医学会東北地方会幹事 (1998年 9 月～)</p> <p>3) 第62回秋田国体競技力向上対策本部体力診断事業アドバイザー (1998年10月～)</p> <p>4) 秋田県スポーツ医・科学委員会委員 (1999年 4 月～)</p> <p>5) 秋田県立大学全学サッカー部監督 (2001年 4 月～)</p> <p>6) 東北地区大学サッカー連盟大学委員会運営 2 部 A 委員 (2002年 4 月～)</p> <p>7) 日本教育医学会大会実行委員 (2004年 8 月)</p> <p>8) 第29回東北地区大学サッカーリーグ大会役員 (委員) (2004年 9 月)</p> <p>9) 日本体育測定評価学会理事 (2005年 4 月～)</p> <p>10) 日本教育医学会大会実行委員 (2005年 8 月)</p> <p>11) 第30回東北地区大学サッカーリーグ大会役員 (委員) (2005年 9 月)</p> <p>* 学位、受賞歴等</p> <p>1) 博士 (学術)、金沢大学大学院自然科学研究科生命科学専攻、自博甲第685号 (2004年 9 月)</p>
<p>V その他の 活動 (助 成研究、 報告書等)</p>	<p>* 助成研究</p> <p>1) 秋田県立大学学長プロジェクト研究「集団スポーツ (球技) におけるゲームパフォーマンスの定量化及び体力との関係に関する萌芽的研究」2004年 3 月 (平成16年度)</p> <p>2) 文部科学省科学研究費補助金若手研究 (B)「視覚・固有受容系による上肢・下肢の筋力発揮調整能に関する研究」(課題番号17700476) 平成17年度～平成19年度</p> <p>3) 秋田県立大学学長プロジェクト研究「集団スポーツ (球技) におけるフィールドで測定する競技力と体力との関係に関する萌芽的研究」平成17年度</p>

	<p>* 報告書等</p> <p>1) 長澤吉則「音楽療法研究会に期待すること」秋田県音楽療法研究会誌第3号 2004年7月</p> <p>2) 長澤吉則「競技力向上に活かす体力診断事業(運動部門)」平成16年度報告書(財団法人秋田県総合公社スポーツ会館管理事務所)2005年3月、VOL.26</p>
--	---

高橋秀晴 助教授

<p>I 著書・学術論文等</p>	<p>* 著書</p> <p>1) 『フロンティアの文学』(論創社)2005年3月20日(共編著)</p> <p>2) 『秋田市史第五巻近現代II通史編』(秋田市)2005年3月31日(共著)</p> <p>3) 『「種蒔く人」の精神』(DTP出版)2005年9月20日(共編著)</p> <p>* 学術論文</p> <p>1) 高橋秀晴「今野賢三『女工戦』『新・プロレタリア文学精選集』(ゆまに書房)2004年6月1日、第15巻、1～5ページ(単著)</p> <p>2) 高橋秀晴「作家伊藤永之介の誕生」『社会文学』(日本社会文学会)2004年6月10日、第20号、85～92ページ(単著)</p> <p>3) 高橋秀晴「「私ひとりの私」に於ける「私」『国文学解釈と鑑賞』(至文堂)2005年4月1日、第70巻4号、147～151ページ(単著)</p> <p>4) 高橋秀晴「「門」試論」『国文学解釈と鑑賞』(至文堂)2005年6月1日、第70巻6号、154～161ページ(単著)</p> <p>5) 高橋秀晴「文学空間あきた／本県近代作家の故郷観」『秋田魁新報』学芸欄(秋田魁新報社)2005年8月26日～、毎週金曜日連載(単著)</p> <p>6) 高橋秀晴「人間の尊厳を問う—松田解子の小説世界」『乳を売る・朝の霧／松田解子作品集』(講談社)2005年10月10日、245～257ページ(単著)</p>
<p>II 学会報告等</p>	<p>1) 高橋秀晴「「種蒔く人」創刊の機縁」上越教育大学国語教育学会第47回例会 2004年6月19日(於：上越教育大学)</p> <p>2) 高橋秀晴「松田解子さんを語る」松田解子の会 2005年4月9日(於：日本青年館)</p> <p>3) 高橋秀晴「伊藤永之介から見る『文芸戦線』と『文芸時代』『種蒔く人』『文芸戦線』を読む会第34回例会 2005年7月9日(於：神楽坂エミール)</p> <p>4) 高橋秀晴「小林多喜二と松田解子」中国小林多喜二国際シンポジウム 2005年11月12～13日(於：中国・河北大学)</p>
<p>III 社会活動および受賞歴等</p>	<p>1) 日本近代文学会東北支部運営委員(1995年5月～)</p> <p>2) 秋田市史編さん委員会執筆協力員(2001年4月～2005年3月)</p> <p>3) 秋田の文学資料調査収集委員会委員(2002年6月～2005年3月)</p> <p>4) 「あきたの文芸」選考委員(2003年5月～2005年3月)</p>

	<p>5) 石川達三生誕百年記念事業実行委員会委員 (2005年3月～)</p> <p>6) 「社会文学」第23号編集委員 (2005年3月～)</p> <p>7) 秋田県立秋田南高等学校学校評議員 (2005年4月～)</p> <p>8) あきた文学資料館運営委員会委員 (2005年4月～)</p> <p>9) 東北新潟出身作家研究会常任理事 (2005年4月～)</p>
<p>IV 講演、公開講座等</p>	<p>1) 秋田県立仁賀保高等学校進路講話「大学進学の意味」 2004年11月24日 (於：秋田県立仁賀保高等学校)</p> <p>2) 平成16年度第3回「秋田ふるさとセミナー／「種蒔く人」終刊80年」 2004年11月25日 (於：秋田県立図書館)</p> <p>3) 日本文学同好会「戦後文学の展開」2005年1月9、30日 (於：ジョイナス)</p> <p>4) 秋田県立仁賀保高等学校進路講話「大学における授業 (講義)」 2005年2月16日 (於：秋田県立仁賀保高等学校)</p> <p>5) 日本文学同好会「松田解子の文学」2005年4月17、24日 (於：ジョイナス)</p> <p>6) 秋田県立大学公開講座「秋田その未来／秋田の文学を巡る現状と展望」 2005年5月14日 (於：秋田明德館高校ビル)</p> <p>7) 秋田県民カレッジ／あきた未来学「田口掬汀の国際感覚」 2005年8月6日 (於：秋田県生涯学習センター)</p> <p>8) 秋田県民カレッジ／あきた未来学「千葉治平の異国 (中国) 体験」 2005年8月27日 (於：秋田県生涯学習センター)</p> <p>9) 秋田県民カレッジ／あきた未来学「百花繚乱「文芸の里」をたどる」 2005年9月18日 (於：角館町)</p> <p>10) 秋田県立角館高等学校模擬講義「秋田の近現代文学—松田解子を中心に」 2005年10月21日 (於：秋田県立角館高等学校)</p> <p>11) 平成17年度秋田県読書フェスタ「文学の今」2005年10月23日 (於：秋田県立図書館)</p> <p>12) あきた文学資料館ボランティア講座／わかりやすい秋田文学史「大正～昭和時代—反既成文学の誕生と展開」2005年12月6日 (於：秋田明德館高校ビル)</p>
<p>V その他の活動 (助成研究、報告書等)</p>	<p>1) 「事件の諸相を立体的に提示／「松田解子自選集」刊行に寄せて」「秋田魁新報」 2004年6月22日</p> <p>2) 選評「読後あれこれ」『あきたの文芸』2004年11月19日</p> <p>3) 書評「「魂震わす言葉」追求」「秋田魁新報」2004年12月5日</p> <p>4) 「時流超え、屹立する文学／松田解子さんをしのんで」「秋田魁新報」2004年12月28日</p> <p>5) 取材協力・資料提供「ABSスペシャル／松田解子愛と闘いの人生」ABS秋田放送 2005年2月26日</p> <p>6) 平成17年度秋田県立大学学長プロジェクト研究「松田解子研究」</p> <p>7) パネルディスカッション・コーディネーター「親子間の意識のギャップを考える」秋田県高等学校PTA連合会中央地区交流大会 2005年10月14日</p>

総合科学教育研究センター個人業績

	<p>8) 取材協力「痛切な女性の生刻む／乳を売る・朝の霧／松田解子作品集」『秋田魁新報』2005年10月16日</p> <p>9) 取材協力「秋田・大仙出身のプロレタリア作家松田解子の作品集出版／「反骨精神」次世代に」『河北新報』2005年11月3日</p> <p>10) 取材協力「『乳を売る 朝の霧 松田解子作品集』／女性ならではの苦悩描く」『讀賣新聞』2005年11月8日</p> <p>11) 取材協力「作家故松田解子の短編集『乳を売る・朝の霧』文庫化／大仙出身・労働者の観点で描く」毎日新聞 2005年11月12日</p>
--	---

紺野 祐 助教授

<p>I 著書・学術論文等</p>	<p>* 学術論文</p> <p>1) 紺野 祐「諸科学の進展と『人間理解』の更新——保育に始まる人間形成の特殊性」『教育思想』（東北教育哲学教育史学会）2005年2月28日、第32号、29～48ページ（単著）</p> <p>2) 紺野 祐「マックス・シェラーの教育論(1)——現象学的—人間学的にみた教育的関係批判」『青森中央学院大学研究紀要』（青森中央学院大学）2005年3月31日、第7号、75～105ページ（単著）</p> <p>3) 紺野 祐「進化と人間形成——《人間の本性》としての学びと社会化」『プロテウス』（仙台ゲート自然学研究会）2005年9月30日、第8号、1～28ページ（単著）</p>
<p>II 学会報告等</p>	<p>1) 丹藤 進・紺野 祐「教師の資質能力に関する調査研究——『教師レジリエンス』の視点から」日本教師教育学会第15回研究大会 2005年9月25日（於：北海道教育大学釧路校）（共同）</p> <p>2) 紺野 祐「現代進化論と『人間の本性』——教育人間学のあらたな展開」教育哲学会第48回大会 2005年10月23日（於：香川大学）（単独）</p>
<p>III 社会活動および受賞歴等</p>	<p>1) 平成17年度秋田県生涯学習センター調査研究員</p>
<p>IV 講演、公開講座等</p>	<p>1) 平成16年度第1回「青森中央学院大学公開講座」『迷走する教育と《たくましい子ども》——『子どもの人間学』の試み』2004年5月29日（於：青森中央学院大学）</p>

## 高階 悟 教授

I 著書・学術論文等	*学術論文 1) 高階 悟 「日本における英語教育の課題」『秋田県立大学総合科学研究彙報』(秋田県立大学総合科学教育研究センター) 2005年3月25日、第6号、17~27ページ、(単著)
II 学会報告等	1) 高階 悟 「大学生の英語基礎学力向上計画の実践報告」 第31回全国英語教育学会札幌研究大会 (於：北海道教育大学) 2005年8月6日
III 社会活動および受賞歴等	1) 秋田英語英文学会 副会長 (2002年4月~) 2) 秋田県 TOEIC 推進協議会委員 (2003年4月~)
V その他の活動 (助成研究、報告書等)	1) 平成17年度秋田県立大学学長プロジェクト研究「大学淘汰時代における秋田県立大学の英語教育システムの改善：科学技術英語教育の研究調査」(共同研究) 2) 「松田解子の問いかけ」『秋田魁新報』2005年11月9日

## Joseph M. Young 教授

V その他の活動 (助成研究、報告書等)	1) 平成17年度秋田県立大学学長プロジェクト研究「大学淘汰時代における秋田県立大学の英語教育システムの改善：科学技術英語教育の研究調査」(共同研究)
----------------------	---

## 高橋 守 教授

I 著書・学術論文等	*学術論文 1) 高橋守「英語テストのストラテジー(3)」『秋田県立大学総合科学研究彙報』 2005年3月25日、第6号、9~16ページ (単著)
IV 講演、公開講座等	1) 「秋田県立大学地域公開講座」2004年5月23日 (於：ジョイナス) 2) 「秋田県立大学地域公開講座 in おおだて」2004年10月2日 (於：大館市中央公民館)
V その他の活動 (助成研究、報告書等)	1) 平成17年度秋田県立大学学長プロジェクト研究「大学淘汰時代における秋田県立大学の英語教育システムの改善：科学技術英語教育の研究調査」(共同研究)

Stephen Shucart 助教授

I 著書・学術論文等	* 学術論文 1) "Symbols and Syntax ; Emergence in Language Evolution – An Overview" RECCS Bulletin #6, Akita Prefectural University. March 25, 2005.
II 学会報告等	1) 'ESP [English for Special Purposes] – Adapting an American High School Science Textbook for the ESL/EFL Classroom' Iwate JALT Chapter Meeting, Morioka, Iwate, July 2004
III 社会活動および受賞歴等	1) Akita JALT Chapter – Publicity Chairman, December 2003 to present 2) CALL E-J – Online Language Journal – Editorial Board ; May 2003-present
V その他の活動（助成研究、報告書等）	1) 平成17年度秋田県立大学学長プロジェクト研究「大学淘汰時代における秋田県立大学の英語教育システムの改善：科学技術英語教育の研究調査」（共同研究）

榎木蘭鉄也 助教授

I 著書・学術論文等	* 著書 1) 『多言語社会がやっていた：世界の言語政策 Q & A』くろしお出版 2004年6月30日（共著） 2) 『地方自治体の言語サービス：多言語社会への扉を開く』春風社 2004年12月10日（共著） * 論文等 1) 榎木蘭鉄也「アジア英語事情」『英語教育』2005年1月号、大修館書店（pp. 8～10）2004年12月1日（単著） 2) 榎木蘭鉄也「インド英語の底力」『英語教育』2005年1月号、大修館書店（p.19）2004年12月1日（単著） 3) 榎木蘭鉄也「英語圏でもいろいろ、姓から分かる出身地」『英語教育』2005年11月号、大修館書店（pp.16～17）2005年10月1日（単著） * 書評論文 1) ENOKIZONO Tetsuya "World Englishes (by Gunnel Melchers & Philip Shaw, Arnold, London, 2003)" <i>Asian Englishes</i> Vol. 13 ALC Press Inc, Tokyo (pp.111～114) 2004年5月（単著） 2) ENOKIZONO Tetsuya "The Three Circles of English (Edited by Edwin Thumboo, UniPress, the Centre of the Arts, National University of Singapore)" <i>Asian Englishes</i>
------------	---

	<p>Vol.7 Number 1 ALC Press Inc, Tokyo (pp.111~114) 2004年12月 (単著)</p> <p>3) ENOKIZONO Tetsuya "Style in Indian English Fiction:A Study in Politeness Strategies (by Z. N. Patil, New Delhi:Prestige Books, 1994.)" <i>Asian Englishes</i> Vol. 8 Number 2 ALC Press Inc, Tokyo, 2005 (pp.104~107) 2005年7月 (単著)</p>
<p>II 学会報告等</p>	<p>* 研究発表等</p> <p>1) 榎木蘭鉄也「大学の大人数 LL 授業で学生を活動に参加させる工夫の一端」関西英語教育学会第8回研究大会 (於：神戸大学) 2004年6月5日</p> <p>2) 榎木蘭鉄也「インド英語の Intelligibility」第6回プール学院大学「英語教育セミナー」講演 (於：プール学院大学) 2004年8月5日</p> <p>3) 榎木蘭鉄也「秋田県の言語サービス」日本言語政策学会第5回大会パネルディスカッション「自治体の言語サービスの現況と課題」(於：國學院大學) 2004年11月20日</p> <p>4) 榎木蘭鉄也「インドの英語教育の現状と課題：特に National Curriculum Framework for School Education について」第17回日本「アジア英語」学会全国大会 (於：兵庫県立大学) 2005年6月25日</p> <p>5) ENOKIZONO Tetsuya "English Language Education in India:Should English be a Subject or a Medium?" (発表言語：英語) International Association for Intercultural Communication Studies July 6-8, 2005 at Chinese Culture University, Taipei, Taiwan (<i>A Panel Discussion:Learning from Our Neighbors:A Comparison of English Education Programs in Japan, Thailand, India and the Philippines</i>) 2005年7月8日</p>
<p>III 社会活動および受賞歴等</p>	<p>1) 日本「アジア英語」学会 理事 (3期目) 事務局長代行 学会紀要査読委員</p> <p>2) 文部科学省「『英語が使える日本人』の育成のための行動計画」海外事情調査班</p>
<p>V その他の活動 (助成研究、報告書等)</p>	<p>1) "A Casual Remark on JAFAE's Taiwan Study Tour" <i>Asian English Studies Monograph Series No.4</i> pp. 30-32 The Japanese Association for Asian Englishes 2005年10月</p> <p>2) 平成17年度秋田県立大学学長プロジェクト研究「大学淘汰時代における秋田県立大学の英語教育システムの改善：科学技術英語教育の研究調査」(共同研究)</p>

佐藤博晴 助教授

<p>I 著書・学術論文等</p>	<p>* 学術論文</p> <p>1) 佐藤博晴「学生の授業評価 (英語リスニング) を検証する」『秋田英語英文学』、2004年11月24日、第46号、26~33ページ (単著)</p>
-------------------	---

総合科学教育研究センター個人業績

	<p>2) 佐藤博晴「日本人 ESL / EFL 学習者の認知・性格要因と学習ストラテジー使用の関係」『東北英文学会第59回大会 Proceedings』2005年3月30日、49～54ページ (単著)</p> <p>3) Hiroharu Sato "The Relationship between Study Skills, Personalities, and English Achievement in Japanese College Students", 『東北英語教育学会紀要』、2005年3月31日、第25号、41～49ページ (単著)</p>
II 学会報告等	<p>1) 佐藤博晴「日本人 ESL / EFL 学習者の認知・性格要因と学習ストラテジー使用の関係」東北英文学会第59回大会 (於：東北大学) 2004年11月20日 (単独)</p>
III 社会活動および受賞歴等	<p>1) 東北英文学会評議員 (1999年4月～)</p>
V その他の活動 (助成研究、報告書等)	<p>1) 佐藤博晴「コミュニケーション能力養成のための英語指導法の研究・開発—学習者要因の視点から—」『平成15年度秋田学術振興財団学術研究補助事業実績報告書』、2004年、27～35ページ (単著)</p> <p>2) 平成17年度秋田県立大学学長プロジェクト研究「大学淘汰時代における秋田県立大学の英語教育システムの改善：科学技術英語教育の研究調査」(共同研究)</p>

松村聡子 講師

I 著書・学術論文等	<p>* 著書</p> <p>1) 『英米文学に見る男女の出会い』(北星堂書店) 2004年9月20日 (共著)</p>
II 学会報告等	<p>1) 「描く、エリナー —— <i>Sense and Sensibility</i> における "employment" ——」東北英文学会第60回大会 2005年10月29日 (於：岩手大学)</p>
V その他の活動 (助成研究、報告書等)	<p>1) 平成17年度秋田県立大学学長プロジェクト研究「大学淘汰時代における秋田県立大学の英語教育システムの改善：科学技術英語教育の研究調査」(共同研究)</p>